

***J-RACE 2019* の総括**

藤原祥裕¹⁾, 山内正憲²⁾, 河野 崇³⁾

1) 愛知医科大学麻酔科学講座

2018 年度日本区域麻酔学会 *J-RACE* 委員会委員長、認定医審査委員会委員長

2) 東北大学医学部麻酔科学・周術期医学分野

2019 年度日本区域麻酔学会 *J-RACE* 委員会委員長、認定医審査委員会委員長

3) 高知大学医学部麻酔科学・集中治療医学講座

日本区域麻酔学会事務局担当

1. はじめに

J-RACE 2019 (2019 年度日本区域麻酔学会主催 日本区域麻酔検定試験 ; Japanese Regional Anesthesia Certificate Examination 2019) は応募者 544 名、そのうち 72 名が欠席したため、最終的な受験者は 472 名でした。内訳は 354 名 (75%) が日本区域麻酔学会員、118 名 (25%) が非学会員でした。受験者数が予想を大幅に上回ったため、事務処理、会場選定、当日の人の動線、さらにはクロークをどうするかなどまで、一部混乱がありました。無事に終了できたことに関して、ご協力いただいた受験者の皆様と学会事務局員にお礼申し上げます。

合格率は 72% でした。良問が多く勉強になったという声を多くいただきましたが、初回ということで問題の難易度に目安がなく、作問は手探りの状態でした。日本区域麻酔検定試験委員会の各委員、そして試験問題作成部会の皆様の努力に感謝申し上げます。

J-RACE 2019 の総括と *J-RACE 2020* での変更点等を報告します。

2. 申請システムについて

本学会ホームページの申請フォームを用いることで、大きなトラブルは発生しませんでした。アンケート調査でも、「使用しにくかった」という回答は 6.1% と少数でした。受験料・登録料は 92.3% が「妥当」との回答でした。

受験要綱に筆記用具の具体的な内容を記載していなかったため、一部の受験者が CBT 形式と勘違いし、鉛筆と消しゴムを持参していませんでした。前日までの学会期間中にアナウンスしましたが、今回は改善します。

3. 試験構成と問題の難易度について

本学会教育ガイドライン(<http://regional-anesth.jp/about/guideline.html>)の範囲から、満遍なく知識問題 60 問と臨床問題 40 問の合計 100 問を出題しました。選択肢は A-type(単純択一形式)30 問、X2-type(多真偽形式、五肢複択形式)70 問、試験時間は 150 分間でした。

受験者へのアンケート調査では、試験問題の難易度は、簡単(1.0%)、妥当(50.5%)、難しい(48.5%)となりました。とくに X2 タイプの解答形式が難易度をあげたと思われます。試験時間(150 分)は、84.8%の受験者が妥当と回答しました。また、78.1%が、「今後 J-RACE の受験を同僚などに進めたい」と回答しました。

4. 合格率について

合否判定は、本学会の J-RACE 委員会、認定医審査委員会、教育委員会における合同委員会を開催し、得点分布に基づいて審議されました。全問題の正答率と識別指数を算出し、4 問(4%)が不適切問題として採点から除外されました。最終的な J-RACE 2019 の合格率は 72%でした。

なお、正答率、平均得点等に関しては、現段階で公表いたしません。今回は第 1 回ということで、受験生の難易度の予想と委員会の成績の期待値に差がありました。そのため正答率等の情報が J-RACE 2019 受験者の参考になりづらく、むしろバイアスになるという判断であることをご理解ください。合格者最低得点が、きわめて高かったわけではないとだけ記しておきます。

試験内容に関しては、68.0%が「妥当」と回答しました。J-RACE2020 では、各方面からの意見を参考として、問題領域を一部変更し、偏りを減らす予定です。詳細は、受験要綱に記載しますのでご確認ください。

5. 会場について

受験者数が予想を大幅に超えたため、十分なクロークのスペースを確保できないなどの問題が発生しましたが、大きな混乱なく試験を終えることができました。アンケートで運営について、「悪かった」と答えた受験者は 4.6%にとどまりました。また、試験日程については、「良かった」(57.8%)、「悪かった」(42.2%)と意見が分かれました。J-RACE 2020 は第 7 回 学術集会に合わせて、長野県で 2020 年 4 月 19 日 日曜日に開催することが決定しています。それ以降は学術集会と分離することも含めて現在協議中です。

6. その他の要望・意見について

「試験問題および解答を開示してほしい」、「日本語で書かれた参考テキスト・問題集がほしい」、「英語での試験を実施してほしい(今回は国際学会と合同開催でしたので、海外から

の学会参加者から)」という意見が多く寄せられました。これらの意見は区域麻酔の進歩にとって有用なことですが、過去の問題だけを学ぶ受験者が増加することへの危惧もあります。適正な学びと試験レベルの維持をどのようにするかは、現在関係委員会で協議中となっています。

7. J-RACE 2020 に向けて

会場と受験者数:すでに学会事務局と2019年度J-RACE委員会を中心に進んでいますが、最も難しいのが受験者数の予想です。すでに日程は決まっており、会場についても費用、大きさ、利便性、公正さの担保などを考慮して、長野市内に確保しました。受験者数が会場の限界を超えた場合は、受付を制限せざるえないことをご理解ください。2019年9月末頃までに最終的な受験要綱等を公開予定です。

問題作成:J-RACE 2019の結果を踏まえ、作問をすでに開始しています。区域麻酔に関する分野だけの作問はかなりの制限となりますが、J-RACE 2020も良問が多くなるように鋭意準備中です。

受験資格:本学会会員のみとするか否かについて、様々なご意見をいただきました。事務的にはJ-RACEは学会事業の一環のため、受験者に非会員がいると税務処理・事務処理・学会指導医資格の期間が、複雑になることがわかりました。受験料は学会員にメリットがあるようにしたいとの意見もありました。つきましてはJ-RACE 2020の受験資格は、会員のみとします。非会員に対しては、受験申込直前の入会手続きを事務局が迅速に対応することで、受験可能とします。また、複数回挑戦していただける合格者も歓迎しています。

記念品:区域麻酔は全ての麻酔科医が行うものですが、J-RACEの合格は、正しい知識に基づいた指導を行っていただける目安の一つと考えています。そのためJ-RACE 2019合格者には、指導する際に神経ブロックのランドマークや超音波画像を指し示すための‘指示棒’を合格証とともに贈りました。

8. 最後に

J-RACE 2019が無事終了し、受験者のいい学びとなっていれば幸いです。J-RACE 2020の運営と問題内容が、会員のさらなる活躍に寄与できるよう努める所存です。ご意見・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

利益相反なし